

第7回 やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～ 結果報告

○下水道場とは

- 下水道関係組織においても行政改革に伴う職員採用の抑制や経験豊富な職員の退職等により、技術やノウハウの継承が問題となっている。
- 一方で、事業量の減少や民間への業務委託の増加により、若手職員は自らの組織の業務だけでは十分な知識、情報を得ることが難しい状況となっている。
- このような状況に鑑み、平成24年9月、国土交通省によって、下水道事業の持続的・安定的な運営や一層の発展のため、若手職員同士が交流し、お互いの悩みや検討課題を相互に相談する場として「下水道場」が設立された。
- 本県では、平成28年9月に「やるばい長崎下水道場」を設立し、市町若手職員同士のネットワーク形成・スキルアップを図るとともに県内の下水道事業のさらなる発展を目指して取り組んでいる。

第7回 やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～ を以下のとおり開催しました。

- 日時：令和5年10月25日（水） 13：45～17：00
- 場所：長崎県大波止ビル7階（長崎県長崎市元船町17-1）
長崎県庁 ロータリー横（長崎県長崎市尾上町3-1）
- 対象：長崎県内下水道若手（概ね40歳以下）職員
- 参加：長崎県内10市町 21名
- 名称：やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～

○会次第

講義

- 1) 下水道事業について
国道交通省九州地方整備局 袴田係長
- 2) マニュアル積算説明について
公益財団法人日本下水道管路管理業協会 米川技術部長
- 3) 長崎県の下水道行政等に関する取組について
長崎県水環境対策課 添川課長補佐
田出主任技師
- 4) 下水道管渠の維持管理について（野外展示）
公益財団法人日本下水道管路管理業協会

講義

1) 下水道事業について

国土交通省九州地方整備局 袴田係長

九州地方整備局の袴田さまより下水道の歴史から昨今の課題、補助事業等まで幅広くご説明いただきました。

近年より重要度が上昇している持続可能な事業運営へ取組みや、マンホールトイレなどの災害時の対策についてご紹介いただき、下水道を運営する私たち行政が普段からこのようなことに備える重要性を改めて認識しました。



2) マニュアル積算説明について

公益財団法人日本下水道管路管理業協会 米川技術部長

日本下水道管路管理業協会の岩藤部会長よりご挨拶頂いた後、米川技術部長より下水道管路管理マニュアル・積算資料についてご説明いただきました。

改訂事項の一つ、下水管内に人が直接立ち入って調査を行う管内潜行目視調査工では、従来は管径 800mm 以上を対象としていたものを、時代や実態に合わせて 1500mm 以上を対象に改めた件を見ただけにもわかりやすくご紹介いただきました。

これ以外にも、換気工など安全上重要な工程などの積算上の注意点も併せてご紹介いただきました。



フラフープの直径が 800mm。テープの位置が 240mm で標準的な水深となる。

3) 長崎県下水道行政等に関する取組について

長崎県水環境対策課 添川課長補佐
田出主任技師

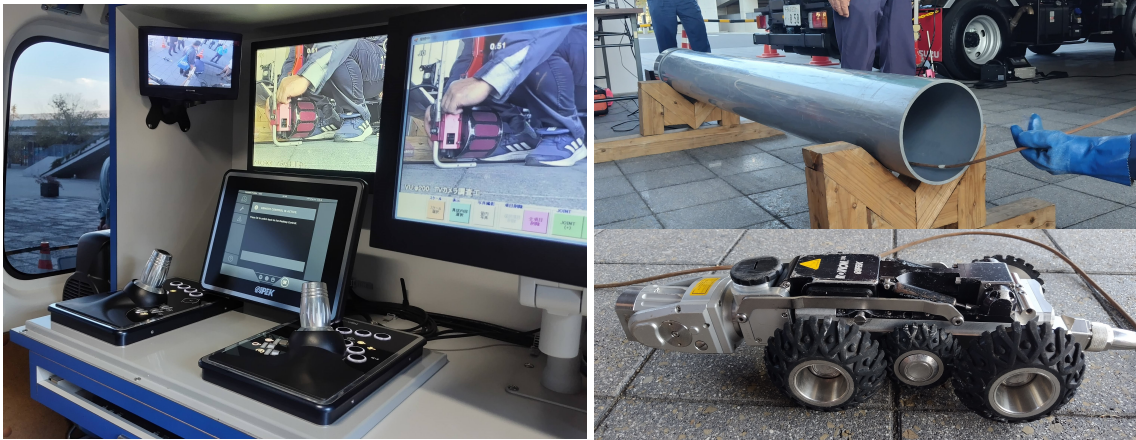
長崎県水環境対策課の添川課長補佐より、雨水対策に重要な想定区域図やハザードマップ等の取組みの紹介や、県内の汚水処理人口普及率や汚水処理構想の見直しなど、下水道以外も含めた汚水処理行政全体の説明を行いました。

田出主任技師からは、近年の浄化槽は改良が進み、高い処理能力を持っていることを説明しました。



4) 下水道管渠の維持管理について（野外展示）

公益財団法人日本下水道管路管理業協会



公益財団法人日本下水道管路管理業協会のご協力により、野外展示として管内調査用のカメラや、管内の洗浄用具、ディスポーザー等を実際に稼働させながらご紹介いただきました。

張り巡らされた下水道管の維持管理には効率的なスクリーニングが重要になっています。カメラを管の中に入れることで、見た目での確認ができると同時に記録もしやすくなっており、比較的短期間で長距離の確認ができます。長い柄の先にカメラを付けたタイプから、柔軟なチューブの先にカメラをつけたもの、自走式のロボットまで様々な展示がありました。自走式のはコントロールルームから2本のスティックで操作し、内部でカメラの向きを変えるなど、より自由度の高い調査が可能になっていました。

最後に

第7回下水道場では、コロナ禍が一段落したことも踏まえ、国土交通省からの講師派遣に加え、以前から要望がありました「他自治体との意見を共有したい」という意見を踏まえ、意見交換会も併せて開催しました。

講義では、国土交通省から下水道に関する基本的な説明があり、日本下水道管路管理業協会からは、工事を発注する際に積算と現地をいかにして一致させるかを学ぶことができ、現地研修では地中に埋まって普段は見えない下水道管内でカメラがどのようにして撮影を行っているか目の当たりにできました。

今後の下水道事業の継続的な運営には若手技術者の確保やスキルアップが重要となりますので、若手職員の技術力向上に加え各市町間の連携強化のために、今後も下水道場を継続していきます。

